

# 化学教育 徒然草



## 化学の面白さを伝える

SUGA Hiroaki

菅 裕明

東京大学理学系研究科 教授  
令和4~5年度 日本化学会 会長



巻頭言

2022年、第54回国際化学オリンピックで日本代表生徒4名全員が揃って金メダルを獲得しました。文科省からも、この快挙に大きな称賛を頂きました。この場を借りて、私からも祝福の言葉を捧げたいと思います。おめでとうございます！また、彼らを理解し育ててくださった親御さま、また彼らを指導してくださった教諭の先生がたにも、心から感謝申し上げます。さらに、この4名の選抜にあたり、国内化学グランプリで活躍する多くの優れた学生を育ててくださった教諭の皆様にも、改めて御礼申し上げます。やはり、このような快挙は、優れた学生が多く育まれているからこそ達成できることであり、これは化学の面白さに触れる機会を与えてくださっている多くの教諭の先生がたのおかげだと思えます。

さて、以下、私事を記載することをご容赦ください。私は、ごくごく普通の家庭に生まれました。高校出の両親で自営業を営んでいたことから、私は塾に通うこともなく、地元のいわゆる県立の進学校に入学した次第です。多くの優れた研究者・教授の方々、子供のころからサイエンスに触れ魅了されていた、なんていうストーリーをよく拝読します。しかし、私にはそういったストーリーはまったくありません。高校では、エレキギターの練習に日々の時間を費やし、ろくに勉強もしていませんでした。特別な音楽の教育も受けていなかった私には、練習にのめり込む以外に上達するすべはありません。そんな私の高校1年の担任の先生は、化学の教諭でした。彼から「菅、ギターを弾き続けるのか、大学に行くのか、2択だ、決めろ」と言われ、「はい、ギターを弾きます」と答えたほどです。しかし、多くある教科で唯一好きだったのは化学でした。その理由は、その教諭の授業が面白かったからです。彼の手書きの配布資料は、教科書なんかより遥かに面白くまとめられ、わかりやすく興味深かった。その後、親からの要請もあり、私は1年の浪人を経て地元の大学に進学しますが、その時に選んだのは工学部工業化学科でした。大学でも相変わらずギターを弾いていましたが、大学4年生に配属された研究室の研究に魅了され、現在の私が誕生しました。まったく、高校の先生からは想像もつかなかったことでしょう。でも、私はあなたが教えてくださった化学の面白さに触れたおかげで現在があります。改めて御礼を申し上げます。その面白さを、私が現在預かっている学生たちにも、できる限り伝えたいと思っています。

[連絡先]

113-0033 東京都文京区弥生1-2-2 (勤務先)

E-mail : dadada4u@me.com